

令和2年度 第1回上川中部定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議録

○日時：令和2年9月24日（木）午前10時から午前11時30分まで

○場所：旭川市職員会館2階 第2・3号室

○出席者

- ・委員7名 片山兵衛委員，堀川陽子委員，工藤良伸委員，渡辺多賀志委員，板東康治委員
佐々木英樹委員，大矢二郎委員
- ・オブザーバー9名 鷹栖町総務企画課 山原参事，東神楽町まちづくり推進課 佐藤課長補佐，
当麻町まちづくり推進課企画商工係 横山係長，愛別町総務企画課 高田参事，
上川町企画総務課企画グループ 井上主任，東川町企画総務課総務室 柳澤主事，
美瑛町まちづくり推進課政策調整係 安藤係長
上川総合振興局地域創生部地域政策課 細谷課長，関戸主事
- ・事務局(旭川市)5名 総合政策部 坂本次長，政策調整課 石崎補佐，清原主査，狩野主査，大島

○会議資料

- ・次第
- ・資料1 出席者名簿
- ・資料2 上川中部定住自立圏共生ビジョン懇談会設置要綱
- ・資料3 上川中部定住自立圏共生ビジョン懇談会の会議運営（案）
- ・資料4 上川中部定住自立圏の概要
- ・資料5 上川中部定住自立圏共生ビジョン（平成28年度～令和2年度）評価検証報告（案）
- ・資料6 第3期上川中部定住自立圏共生ビジョン（2021-2025）（素案）
- ・資料7 定住自立圏構想推進要綱

○会議内容

1 開会

2 委員紹介（資料1）

各委員，各町からの出席者の紹介

3 懇談会

(1) 座長，副座長選出（資料2）

ア 座長の選出

事務局の坂本次長が仮議長となり，座長の選出を行った。

事務局一任となり，事務局は大矢委員を座長に推薦し，了承された。

イ 副座長の選出

座長は，副座長に堀川委員を選任し，了承された。

(2) 会議の運営について（資料3）

事務局から説明。提案のとおり了承された。

(3) 上川中部定住自立圏構想の概要と懇談会の目的について（資料4）

事務局から説明

(4) 議事

ア 第2期上川中部定住自立圏共生ビジョン（平成28年度～令和2年度）の評価検証報告について（資料5）

○事務局から説明

- ・本年度が現在の第2期ビジョンの最終年度となることから，次期ビジョン策定の基礎とすべく，現ビジョンの評価検証を行うもの。
- ・圏域における総人口は，各市町において策定する人口ビジョンの設定値を合計した将来展望390,156人に対し，実績値385,731人となっており，4,425人目標を下回っている。一方，国立社会保障・人口問題研究所による推計値との比較では，推計値380,176人に対し，5,555人推計値を上回っている。圏域における総人口は減少傾向にあるものの，想定よりはゆるや

かに推移しているといえる。

- ・高齢化率は、総人口と同じく、各市町において策定する人口ビジョンの設定値を合計した将来展望33.8%に対し、実績値では33.8%と同率となっている。一方、国立社会保障・人口問題研究所による推計値との比較では、推計値35.9%に対し、2.1%低くなっている。高齢化については、おおむね想定どおりに推移しているといえる。
- ・定住自立圏構想推進要綱において、ビジョンに記載する具体的取組について、明確な成果指標（K P I）を設定し、進捗管理を行うこととなっているほか、ビジョンの期間が満了する際は、成果指標の達成状況等を踏まえて、次期ビジョンを策定することとなっている。

【成果指標（K P I）のまとめ（24ページ）】

- ・29の取組のうち、目標を達成した取組は15、目標に達していない取組は13、令和2年度からの取組のため実績値がないものが1、となっている。
- ・「生活機能の強化に係る政策分野」の内、「医療」「福祉」「教育」については、おおむね目標を達成している。中でも、「成年後見制度の利用支援体制の充実」は、達成率が200%を超えており、圏域住民の生活の安定と向上が図られたといえる。その他の取組についても、引き続き体制維持に努めるほか、更なる向上に向けて取組を推進していく必要がある。
- ・「産業振興分野」においては、全ての取組において目標を下回っている。この分野は、経済状況の影響を強く受けるものであり、新型コロナウイルス感染症の終息が見えない中において、今後も厳しい見通しとなることが予想される。今後は、現在の体制や取組を維持しながら、圏域の産業振興に資する新たな取組について連携自治体において検討する必要がある。
- ・「その他」の分野は、9つの取組のうち5つで目標を達成している。目標を達成できなかった取組は、今後に向けた取組推進に加え、内容の見直しなどを行う必要がある。
- ・「結びつきやネットワークの強化に係る政策分野」について、5つの取組のうち、2つの取組で目標を達成している。中でも、「移住定住の促進」は、既に達成率200%を超えているが、新型コロナウイルスの影響により、都市部から地方への人の移動が加速することも予想されることから、相談を実際の移住につなげる取組などについて、圏域全体で取り組む必要がある。一方、目標を達成できていない取組については、新型コロナウイルスの影響により、イベント開催や人の移動が制限されている現状にあっては、今後も厳しい見通しとなることが予想される。取組の継続及び内容の見直しも必要になるのではないかと。

○委員から

（委員）それぞれの成果指標の実績値について、自治体ごとの数値を見せてほしい。

（委員）新型コロナウイルス感染症の影響で、経済活動の先が見えないのが気になる。何らかの新しい産業ができれば良い。

→（座長）非常事態を考慮した取組の視点も重要になってくる。

（委員）今後も旭川市が中心となって取組を進めてほしい。

（委員）スポーツ少年団への参加人数が少なく、合同チームなどでやりくりしている。スポーツをする子どもへの環境整備について、連携して行っていることはあるか。

→（事務局）現在はスポーツ合宿の誘致を行っているが、それ以外の取組は実施していない。今後は連携自治体が協力することも考えていく必要がある。

（委員）目標値はいつ設定したものなのか。

→（事務局）平成28年に定住自立圏構想推進要綱の一部改正があり、その結果、成果指標を設定することとなり、同年に設定したもの。

（委員）いくつかの事業で目標値の設定が適当なものなのか疑問がある。

→（座長）ビジョンの見直しに当たっては、適切な指標設定とする必要がある。

イ 第3期上川中部定住自立圏共生ビジョン（2021-2025）（素案）について（資料6）

○事務局から説明

- ・資料1 ページ上段に、定住自立圏及び市町の名称を記載しているほか、各市町の人口及び昼夜間人口比率を表形式で記載している。定住自立圏構想推進要綱において、中心市は「人口

5万人程度以上」であること、「昼夜間人口比率が1以上であること」とされている。

- ・1ページ下段から23ページにかけ、定住自立圏の将来像について記載している。文章については、圏域を取り巻く状況に大きな変化がないことから、現時点を踏まえた修正程度としている。
- ・15ページ以降の「都市機能の集積状況」について、各町の状況を追加しているほか、22ページ下段の表にある総人口及び高齢化率について、各市町で策定する人口ビジョンを踏まえた数値に更新している。
- ・23ページ下段のビジョンの期間は、令和3年度から令和7年度までの5年間としている。
- ・24ページ以降に、具体的取組について記載している。なお、24ページ下段に記載しているとおり、成果指標は協議中の案となっている。また、令和3年度の事業費及び主な取組は、各市町における予算編成後に開催する第2回ビジョン懇談会でお示しする。
- ・現時点における取組の数（29）及び取組の内容、旭川市及び各町の役割について大きな変更はないが、成果指標について、見直し等を検討しているものがある。時間の都合もあるので、要点を絞って説明する。
- ・26ページ「子育て支援体制の充実」。この事業は、こどもの病気や保護者の急な仕事の際に、あらかじめ登録していた提供会員が子どもを預かるもの。これまで、「こども緊急さぼねっと事業の利用者数」を成果指標としていたが、体制の充実という意味では、利用したいときに利用できるようにするために提供会員確保が必要であることから、「提供会員数」を成果指標とすることにしたいと考えている。
- ・34ページ「創業支援事業」。これまで、「法人市町村民税新規登録件数」を成果指標としていたが、創業体が必ずしも法人格を有するものではないことから、より直接的な指標として、「新規開業件数」を成果指標にしたいと考えている。
- ・その他の取組も適確な評価検証が行えるよう、成果指標の追加や見直しを考えている。
- ・また、現在協議中ではあるが、令和3年度からの新たな取組として、①就業マッチング促進事業（トライアルワーク）、②ICTパーク運営事業、③地域の強みを活かした産業振興（デザイン）の、3つの取組の追加を検討している。これについても、各町との協議を踏まえ、次回のビジョン懇談会でお示しする。

○委員から

（委員）26ページ「子育て支援体制の充実」について、これまで指標としていた利用者数も指標とするべきではないか。

→（事務局）そのように検討したい。

（座長）17ページ「高等教育機関等」の中に、北海道立旭川高等技術専門学院が入っていない。

→（事務局）追加する。

（座長）18ページ「主な研究機関」の中に、旭川市工芸センターが入っていない。

→（事務局）追加する。

(5) その他

（座長）上川中部には幌加内町も含まれるが、幌加内町は定住自立圏には入らないのか。

→（事務局）幌加内町は、これまで上川北部の名寄市・士別市を中心市とする定住自立圏に参画していることから、上川中部には入らないとのこと。

（座長）他圏域の取組も参考に、新しい取組にも挑戦して欲しい。

新型コロナウイルス感染症もあり難しいこともあるが、状況に合わせた実効性のある取組を進めてほしい。

4 閉会

以上